琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

アトリエ琉游舎だより 79号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3
2020年5月20日発行

琉游舎三歳の誕生日

○5月20日で琉游舎がオープンして三年が経ちます。三歳、三周年。会社などの組織は創業期の混沌から方向性が明確になり成長期へと歩を進めている時でしょう。そうでなければ倒産店じまい解散しています。お陰様で琉游舎はどうやら4年目に入ることが出来ました。

○「石の上にも三年」「三度目の正直」「仏の顔も三度まで」「三日坊主」「三日天下」「三」は繰り返しや継続して続ける行為に使われることが多そうです。ということは三日・三月・三年継続できればあとは続ける意思がある限り持続が可能ということではないでしょうか。同じように3回チャレンジすれば成就し、３回同じ過ちを繰り返せば許されないということですね。三歳の琉游舎は今、大切な通過点に立っているようです。

○その通過点に新型コロナの脅威が立ちふさがり、先行き不透明のようにも見えますがこれも今あるがままの琉游舎の姿です。**”少しずつ、できることから、あわてずに”**すべての**”生きとし生けるものとの共棲の場“**として琉游舎は歩き続けていきます。これからも**“あるがままの琉游舎”**をよろしくお願いいたします。

「読書会」「写経会」「映画会」「詩話会」「居酒屋の会」
６月より再開します。予定が変更の場合は掲示板でご連絡します

5・6スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
25	26	27	28	29	30	31
6月1日	2	3	4 映画会 13:30	5	6	7 写経会 13:30
8	9 読書会 13時半	10	11 映画会 13:30	12	13 詩話会 13:30	14
15	16	17	18 映画会 13:30	19	20	21
22	23 読書会 13時半	24	25 映画会13:30 居酒屋の会16:30	26	27	28

写経会
6月7日(日)
13時半から

読書会
6月9日(火)
6月23日(火)
13時半から

詩話会
6月13日(土)
13時半から

居酒屋の会
毎月25日
16時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

狂言綺語…善知識の信

琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

前回の狂言綺語で「自然（じねん）の信」について書いたところ、この文を読んで下さったフェイスブック友達からとても示唆に富むメッセージを頂きました。細田さん、ここに無断転載することお許し下さい。【「図書館だよりなる小冊子に『魚屋さんにいくと養殖の魚と天然の魚ってのがある…。自然の魚とは言わない。』とあった。自然を守るとか破壊するとかいうけど、天然を守るとか言わない。自然ってのをぼくらは、なんか人間の外側にあって、ぼくらが何か仕掛けていじれる対象として捉えられてるように感じる。天然色とか天然の馬鹿とかいうとき僕らは『もう手出しできない』『もうかなわない』…みたいな謙虚さあるいはあきらめみたいな感情を感じる。」なんて書いたら、文学の授業を担当されてた先生がおもしろがって、僕にたくさんの古い釣竿をくれたっけ…、東作の和竿とか！『天然』は英語で表現できるのでしょうか？】

私が自然（じねん）とふりがなを振らないと日本人の自然観について語ることができなかったもどかしさを細田さんのこの言葉が一気に解決してくれました。「天然」も英語では「nature」です。「天然の」と形容詞で使うと「natural」となります。英語に訳すと「自然」も「天然」も同じ訳語です。ただ「もうかなわない」と言うニュアンスで使われる「天然」に該当する意味は「nature」にはなさそうです。そもそもnatureを既存の日本語に当てて訳すことに無理があったのでしょう。Philosophyの訳語の「哲学」が明治時代になって造語されたように、natureとその概念が一致しないのだから造語を当ててくれていたならば「自然（じねん）」とわざわざ断る必要もありません。「天が然る」と「自ずから然る」はかつての日本人にとってほぼ同じ意味だったはずです。「天」は天地万物を支配する理法であり神です。宇宙や世界そのものです。天がそのままそうであることは天をありのままに観ることによって感得できる天そのもののありのままの姿です。「自ずから然る」と全く同じことです。ただ現代の日本語のニュアンスでは「自然」は人間の外側にあってコントロール可能な対象、「天然」は天性や人為の加えられていないコントロール不可能な対象に意味が分化していったように感じられます。「天」は日本人の神であり宇宙であり森羅万象です。「天」に日本人は「信」を置き内在化させ「天」と一体となって生きてきたのです。「天然」には森羅万象を諦めた末の「もう手出しできない」「もうかなわない」という畏敬の念が素直に表出されているように思われます。

私には師僧を除くと同行の僧はいません。僧侶が職業となり宗派が既得権益を守るギルド（同業者組合）になってしまった現代では宗派が違うとなかなか善知識と呼べる人に出会う機会がないものです。しかし私は日々の生活の中で毎日のように善知識を得ています。善知識は「善き友」「真の友人」のことで、仏教の正しい道理を教え利益を与えて導いてくれる人を指していう言葉です。注１「天然」について示唆を与えてくれた細田さんもその一人、日々琉游舎で出会う人たちも妻も父も子供たちもすべて善知識です。昨日琉游舎に遊びに来た小学一年のユミちゃんは音をならすことが楽しくて木鉦を叩きたいのだろうとばかり思っていたら、さにあらず、私と一緒に合掌礼拝し題目に合わせて木鉦を叩くことを望んでいたのです。小さな子どもでも御宝前（神や仏の御前）の前に坐ると傍若無人に振る舞えない何かを感じるのだと改めてユミちゃんに教わりました。彼女も紛れもない私の善知識です。そして堤さんも半年ほど前に私の善知識となりました。

会社時代の同僚の紹介で去年１１月に琉游舎にやって来た時、堤さんは横浜で小学校の先生をしていました。歳は３０代後半現場の教師として働き盛りです。彼は３月で教師を退職し一家四人で伊賀上野に引っ越し、実家のお寺で住職となる行を積むと言う一大決心をしていました。彼の寺は真宗髙田派、親鸞聖人のお弟子さんです。私は日蓮聖人の弟子です。しかしその前に二人ともお釈迦様の弟子です。この日が全くの初対面でしたが、お釈迦様の弟子として夜遅くまで酒を汲み交わしました。その後退職前の３月にもう一度琉游舎で語り合い、４月からは実家の大仙寺で僧侶としての生活をはじめられました。直接会って話すことは難しくなりましたが、メールでのやりとりやオンラインで酒を酌み交わしながら語り合っています。

さてなぜ彼は私の善知識なのでしょう。夜遅くまで酒を飲みメールでやりとりをし話をする。これは特別なことでもなんでもありません。友達や同僚、恋人、親子でも毎日のように行っていることでしょう。難しい教えを語り合うわけでも、互いの宗祖の優位性を誇示するわけでもなく、ただ淡々と昨日今日何をして、そして明日はこうしようと思うことを語り合うだけです。二人とも日々を自分なりのありのままを過ごしていこうと考えて日々を送っていること、そしてそれが僧侶になり続けることだとお互いが信じていることに共感を覚えたからです。僧侶の立場であり続けるのではなく、僧侶になり続けるということはお釈迦様の弟子としてお釈迦様の指し示す法灯明に向かって日々歩き続けることです。私たちの周りにいるすべての人たちは、皆私たちの善知識です。細田さんは「天然」という言葉を私に発見させてくれました。ユミちゃんは子どもにも仏性があることを現実のものとして認識させてくれました。堤さんは同行の僧になりました。そして本人たちがそう思っているかどうかにかかわらず、私にとっては皆お釈迦様の弟子であることがはっきりと分かります。日常の些細な出来事や関係、言葉、行動が私に気づきをもたらし、それが共感に変わり、私の中の血肉となって毎日を生きる力となっていきます。その力のすべては私と関わる人たちからもたらされるもの。そして皆私の善知識です。私以外のすべての人を善知識と信じること、善知識がもたらす力を信じること、それが法灯明が指し示す道だと信じること。私が僧侶になり続けるために置く「信」がここにあります。

琉游舎：戸井　出琉・恭子
お問い合わせ先：0287-53-7848　08033508152
矢板市大槻2319－17コリーナ矢板Ｃ－８５０

注1：琉游舎だより第24号